

志摩地域高等学校の
再編活性化に向けて
(まとめ)

平成19年3月
志摩地域高等学校再編活性化推進協議会



志摩地域高等学校の再編活性化に向けて（まとめ）

志摩地域高等学校再編活性化推進協議会

1 はじめに

- 本県においては、少子化等、社会の変化が急激に進行するなか、高等学校の一層の活性化・魅力化を図るため、県立高等学校再編活性化基本計画に基づき、現在、県立高等学校再編活性化第二次実施計画（以下「第二次実施計画」という。）が推進されています。
- 当志摩地域においては、著しい少子化の進行に加えて、伊勢市内にある高等学校への入学者の割合が地域中学校卒業生の50%を越えるなど、いわゆる「伊勢志向」の状況等も見られます。また近年、志摩地域にある2つの県立高等学校は恒常的な定員割れの状態が続き、学校規模の縮小傾向に歯止めがかからないなど、学校存続に関わる大きな課題があります。
- このような課題を克服し、志摩地域における高等学校の一層の特色化、魅力化を図り、学習者にとって魅力ある学習環境を整備するため、平成17年5月、学識経験者、教育関係者、地域関係者及び保護者等12名の委員（資料1）からなる志摩地域高等学校再編活性化推進協議会（以下「当協議会」という。）を設置し（資料2）、今後の志摩地域の県立高等学校のあり方について、第二次実施計画における改革の方向性を踏まえつつ、一層の活性化を図るという視点から、2年間にわたって検討を行いました。
- 当協議会は、三重大学生物資源学部前川行幸教授を会長として、平成17年度は3回、平成18年度は4回開催しました。平成18年度は、委員代表者による県外調査や地域の中学校との意見交換会も行い、ニーズの把握や検討を重ね、ここにこれまでの協議の結果を「最終まとめ」として報告します。

〔参考1〕協議会の開催日

平成17年度： 第1回（5月30日）、第2回（10月21日）、第3回（3月20日）
平成18年度： 第4回（6月1日）、第5回（8月22日）、第6回（11月13日）、
第7回（1月25日）

〔参考2〕調査研究

県外調査： 静岡県立焼津水産高校（平成18年7月5日）
愛知県立三谷水産高校への学校訪問（平成18年7月6日）
中学校との意見交換会： 志摩市内の11中学校との意見交換会（平成18年10月5日）

2 現状と課題

- 志摩市内中学校卒業生数は、平成16年3月には728人であったのが、平成18年3月に632人となり、さらに、平成23年3月以降は550人弱となって、平成27年度3月には400人台となることが予想されており、今後も著しい減少傾向が続くと考えられます。（資料3）

- 当地域には、志摩高校と水産高校（以下、両校）の2つ県立高等学校があり、両校のこれまでの募集定員の推移は、平成12年度入試においては、志摩高校6学級、水産高校4学級、両校合わせて10学級の募集定数でしたが、その後の入学者数の状況から、平成18年度入試においては、志摩高校4学級、水産高校3学級、両校合わせて7学級規模と減少し、現在（平成19年度入試）に至っています。（資料4）

〔志摩市内中学校卒業生数〕 平成12年3月：754人 平成18年3月：632人

- 両校において志摩市内中学校卒業生が占める割合は、平成18年度、志摩高校96.6%、水産高校が89.9%であり、他市町から両校への入学者数は極めて少ない状況にあります。このことから、志摩市内中学校卒業生数の推移が、両校の入学者数に大きく影響を与えることは今後も変わらないと考えられます。（資料5）

- 中学生進路状況調査によれば、志摩市内中学校卒業生の約50%以上が伊勢市内の高等学校に入学しており、両校に進学する割合は約35%程度となっています。両校が適正規模を維持し、地域に信頼される学校として存続するためには、志摩市内中学卒業生数に占める両校への入学者数の割合を一層高める必要があります。（資料5）

※ 志摩市内中学校卒業生に占める伊勢市内の高等学校へ入学する者の割合

平成17年度：49.8%（321人/645人）、平成18年度：51.9%（328人/632人）

※ 志摩市内中学校卒業生に占める両校へ入学する者の割合

平成17年度：31.5%（203人/645人）、平成18年度：36.2%（229人/632人）

- 水産高校は、近隣府県にも数少ない水産学科を有する学校ですが、市外及び県外からの入学者数は少ない状況にあります。今後は、志摩市の高校としてだけでなく、県内唯一の水産高校として、そのあり方について検討する必要があります。

※ 志摩市外からの水産高校への入学者数及び入学者数に占める割合

平成17年度：12人（/90人、13.3%）、平成18年度：14人（/103人、13.6%）

3 中長期的な展望に立った「活性化」に係る基本的な考え方

(1) 両校の目指す方向

○ 志摩高校

- ・ 志摩市内唯一の全日制普通科高校として、生徒や保護者の多様な学習ニーズに対応し、地域に信頼され、貢献できる学校づくりを進めます。
- ・ 特色あるコースの一層の改善・充実を図り、国公立大学への進学希望にも十分応えられる学習環境を整備します。

○ 水産高校

- ・ 県内唯一の水産高校という特色を生かし、施設・設備を活用した多様な教育を進めつつ、資格取得や進路指導の充実を図り、地域から信頼される学校づくりを進めます。
- ・ 三重大学生物資源学科等、高等教育機関との連携を一層進めます。

(2) 目標とする数値等

- ・ 志摩市内の中学校卒業生の両校へ入学する割合が50%以上となることを目指します。
- ・ 志摩市内の中学生の実態やニーズ、地域の期待・要望を把握し、めざす学校像の実現を図

りながら、志摩市内中学校からの入学者割合を高めます。(現在、約35%程度)

(3) 長期的展望に立った検討

- ・ 10年先を見通した「地域の高校のあり方を考える戦略会議」を設置します。
- ・ 志摩市の中学生卒業生数は、平成23年3月には、平成18年3月から約100人減少することが見込まれており、今後の両校への入学者数の動向や市内生徒の入学者割合を考慮しながら、地域の状況も踏まえつつ、志摩市内高校同士又は鳥羽高校や南伊勢高校等との再編成(総合化)等も視野に入れて、鳥羽・志摩・南伊勢地域全体の県立高校のあり方について具体的な検討を行います。
- ・ 水産教育を行う県内外の教育機関との連携も視野に入れ、今後の水産高校の実習船の活用のあり方や専攻科のあり方等について検討を行います。

4 喫緊の課題に対する取組

(1) 学校の特色化を図り、魅力化を進めます。

- ① 教育課程等を工夫し、教育内容や学校生活を充実させます。
 - ア 一人ひとりの生徒の進路希望に寄り添う、きめ細やかで柔軟な教育課程を工夫して、指導の充実に努めます。
 - イ 地域産業界の協力も得て、充実したキャリア教育(例:インターンシップやデュアルシステム等)のもと、目的意識をしっかりと育む進路指導の充実を図ります。
 - ウ 豊かな人間性を育む、充実感のある活発な部活動に取り組みます。
- ② 開かれた学校づくりを一層進めます。
 - ア 志摩市の協力も得ながら、高等学校の学習内容・資格取得状況・進学状況・就職状況等を地域の中学校の生徒や保護者および市民に対して定期的に情報発信します。
 - イ 市内の小・中学校との授業交流や部活動交流を積極的に進めます。また、大学の出前授業等、校種を超えた連携を進めます。
 - ウ 地域の人を講師に招いたり地域の教材を積極的に活用したりするなど、地域と高校のつながりを深めます。

(2) 「志摩市の学校」として、関係機関や地域産業界等との絆を深めます。

- ① 教育関係機関との連携を進めます。
 - ア 志摩高校・水産高校と市内中学校との連携を図るための体制づくりを推進します。志摩市および志摩市教育委員会の協力・支援のもと、進路指導や生徒指導等の連携会議を定例化し、教職員の交流や課題の共有を進め、相互の理解を図り、指導に生かします。
 - イ 志摩市教育委員会および市PTA連合会との相互の意思疎通を図り、連携して志摩市の子どもたちを育てます。
 - ウ 志摩市広報やケーブルテレビ等、様々な機会を通して、情報発信します。
- ② 地域産業界との連携・協働を図ります。
 - ア 地域産業の振興を踏まえた人材育成の視点から、地域に貢献できる学校づくり・人づくりを意識して取り組みます。
 - イ 地域社会の文化的・伝統的な行事に積極的に参画するなど、地域・地域住民およびNPO等と一体となった活動に関わっていきます。

(3) 地域および関係機関等は、「志摩市の学校」としての両校の取組を応援します。

① 志摩市及び志摩市教育委員会

ア 市広報等を活用して、高等学校の学校紹介に協力します。

イ 市のイベント（市民運動会や英虞湾自然再生協議会等）に高校生の参加を進めたり、活躍の場を作ったりして、生徒の自主的な活動を支援していきます。

② 志摩市中学校

ア これまで取り組んできた、中学校長会と両高校との交流を継続・充実させていくことで、互いの意思疎通を図り、連携を一層深めていきます。

イ 中学校校長会による研修会へ両校長にも参加依頼するなど、中高の学校間交流を計画的に推進します。

ウ 両高校から発信される「学校の特色」や「改革の取組」等の情報を活用し、偏差値などの資料に偏ることなく、進路指導の一層の充実を図ります。

エ 地域の中学校と両高校との教員による意見交換会など、情報共有の場を設定し、連携強化を図ります。

オ 両高校に関する情報を職員間で共有し、生徒・保護者等へ丁寧に紹介します。

③ 志摩市PTA連合会・高校PTA、

ア 学校行事やPTA活動に積極的に参加し、学校の活動を支援します。

イ 両学校の基本的な指導方針・指導事項（例えば生徒指導や進路指導等）に、保護者としてできることを広げていきます。

ウ PTA連合会の高校進路対策会議において、両校の取組状況等を交流し、その結果を各中学校を通じて保護者へ紹介していきます。

④ 志摩市商工会

ア 地域の高校生が、目的意識をしっかりと育む進路指導の充実のために、インターンシップなどの学校の取組を支援します。

イ 総合的な学習の時間等における「地域の歴史・文化・産業」などの体験学習や「地域の講師」の派遣に協力します。

ウ 地域の祭やイベント等に、高校生が参画し活躍する場を作るなどして、学校が取り組むボランティア活動等、生徒の積極的な活動を応援します。

志摩高校 再編活性化方針

県立志摩高等学校

志摩高校再編活性化方針

三重県立志摩高等学校

1. 改革の目的

- (1) 志摩市内唯一の全日制普通科高校として、地域から信頼される学校づくりを目指します。
- (2) 地域の子どもの学習のニーズに応じた学校づくりと、地域に貢献する人材育成を目指します。
- (3) 地域に対して、教育内容等の情報発信を行い、地域の文化の拠点となるように努めます。

2. 経緯

- 平成8年度より普通科の中に国際コースを設置し、主に4年制大学進学を目的とした進路指導を実施してきました。

平成13年度には、国公立大学に6名が進学するなど成果がありましたが、平成14年度に、国際コースとして定員割れをおこして以来、現在まで回復に至っていません。

一方、普通コースにおいては、生徒の進路希望に従って、2年次に教養一般コースと情報処理コースとにコースを分け、教養一般コースは主に大学進学を、情報処理コースは就職を視野に入れ、多様な生徒の進路希望に対応するよう、進路指導を行ってきました。平成16年度、平成17年度は定員を充足することが出来ませんでした。平成18年度には、定員以上の進学希望があり、定員を満たすことが出来るようになりました。

今後、少子化の影響を受け、志摩地域の高校進学を希望する生徒は、さらに減少していくという、厳しい環境ではありますが、より地域に根付いた教育活動を展開する必要があると考えています。

3. 改革の方針

(1) 進路指導のより一層の充実を図る。

- 平成19年度より教育課程を大幅に改革します。具体的には国際コースの選択科目を、生徒ひとりひとりの進路希望により対応するように工夫しました。特に、英語等の基礎科目の履修時間を増やし、基礎・基本の徹底を図り、進路希望実現の指導の強化を図ります。目標設定といたしましては、毎年、国公立大学へ進学出来る生徒が5名以上になるように努力致します。又、2年次に国際コースから普通コース、普通コースから国際コースへの移動を可能にし、より弾力的な教育活動を可能にします。

普通コースについても、国際コースの教育課程の変更に準じる形での改善を行い、より進路選択の多様性を確保するようにしました。

- 進路指導の充実の一環としては、進路先の早期の決定を、生徒自らが考え、決定出来るような機会を、その適切な時期に応じて展開していきます。同時に、社会人としての基礎・基本となる「生きる力」の育成を図るため、「英語検定」や「漢字検定」や「常識力検定」等の資格取得の奨励に力を入れ、指導していきます。

(2) 部活動の振興を図る。

- 伝統あるラクビー部の復活や本年度、全国高校総体県予選団体に於いて男子ソフトテニス部が第3位、女子バドミントン部がベスト16位と健闘したことをステップに、学校組織全体として、運動系クラブを中心に振興に努めます。

(3) 開かれた学校としての情報発信の推進を図る。

- 平成18年度、中学生対象の高校入門講座を夏休みに1回、11月末に1回と合計2回実施しましたが、今後もその内容を改善しながら、より多くの中学生の皆さんが、本校で実施している教育内容を知る機会をつくっていきたいと考えます。
- 授業公開については、平成18年度は2学期に、1週間実施しましたが、平成19年度からは年2～3回の授業公開週間を設定し、その期間に各教科の授業研究会等が開催できるよう検討していきたいと考えています。
- 文化系クラブを中心に地域行事等へ生徒や顧問を派遣したり、外部教育力の導入という観点で、総合的な学習の時間等へ地域の人材を、講師として招聘し、地域の人材と学校との交流の推進を図りたいと考えています。

(4) 学習環境の整備の推進を図る。

- 平成18年9月に普通科教室の空調設備を完了しました。今後も特別教室等の空調の配置等の検討を行い、生徒に快適な学習環境を提供出来るように改善を行っていきます。
- 現在、生徒の制服について、平成20年度から改正する作業を行っています。特に、新制服の選定について、地域の中学生や在校生や保護者の皆さんにアンケート等を実施して、より幅広く意見を集約出来るよう努力していきます。同時に、生活指導の徹底（挨拶、服装等）も進めていきます。
- 体育施設の改善、グラウンドの拡張について現在進行中です。

(5) 教員の意識改革を進める組織文化を高める。

- 学校経営品質向上活動を学校改革の中心に据え、学校マネジメントを積極的に進める組織文化を高めていきます。
- 危機管理についての対応は、問題事例ごとに危機管理プロジェクトを立ち上げ、情報の共有を図り、組織全体で取り組んでいきます。
- 生徒および教員の学校に対する満足度の向上を念頭に置き、経営戦略をもつ学校づくりの推進を図っていきたいと考えます。
- 大学・高等学校・中学校・小学校・幼稚園等、幅広い教育機関と連携して、地域の教育活動に参画していきます。
- 前例踏襲型の教員の意識を改め、内規等も見直し且つ改正し、より地域、県民に透明性で且つ説明責任の果たせる教育活動を実践します。

水産高校 再編活性化方針

県立水産高等学校

水産高校再編活性化方針

三重県立水産高等学校

「志摩町の水産高校から志摩市の水産高校へ 志摩市の水産高校から三重県の水産高校へ」をキャッチフレーズに、県内唯一校として持つ施設・設備を更に生かし、魅力ある水産高校を目指して多様な教育を推進し、より良い活性化に向けて取り組んでいきます。

1. 改革に至る経緯

- (1) 水産科の定員割れが厳しくなる中、平成8年、水産製造科と水産増殖科を統合し水産製造・増殖科と改編、水産4科を3科に縮小し、普通科と合わせて4科となりました。
- (2) 平成17年、少子化の一層進む中、普通科を募集停止としました。しかし、伊勢志向・普通科志向は相変わらず強く、生徒募集に厳しい状況が続いています。
- (3) 平成18年3月、「本県職業教育の改善・充実について」として、三重県地方産業教育審議会（地産審）のまとめが出されました。そのまとめにおいて水産高校については、
 - ① 県内一校として県内各地から生徒を広く募集できる体制作りを構築し、水産教育の改善・充実を図るための努力を展開する。
 - ② 海洋性レクリエーションや真珠の宝飾デザイン等の学習内容の充実を図るため、学科の見直しやコース制の導入について検討を進める。
 - ③ 専攻科については、水産・海運業界の人材ニーズや生徒の上級海技士資格取得希望の動向等も踏まえてその在り方を検討する。これらの経緯を踏まえ、また志摩地域高等学校再編活性化推進協議会のもと、地域や関係機関等から多くの助言・指導を頂きながら本校の活性化に向けた改革方針が検討されました。

2. 改革の方針

(1) PR活動の充実と寮整備

ケーブルテレビ・志摩広報等の活用により市内中学生の十分な確保に努め、また精神的な中学校訪問や新聞・各種メディア等を通じたPR、更にはHPの充実等により、市外・県外生徒の確保にも一層の努力を行っていきます。またそれに伴う寮整備については県教委の理解のもとに再整備を推進していきます。

(2) 関係機関等との連携発展

① 小学校との連携

中長期的展望を持ち、かつ開かれた学校づくりの推進の一環として、スイコーキッズ等の異校種間交流等を充実させる中で、小学生の早い時期からの本校に対する興味・関心や魅力度を高めるための努力を展開していきます。

② 中学校との連携

全県的な中学校訪問や入学生の情報交換、授業公開、出前授業、また中高の管理職交流や教員交流の充実を図り、緊密な情報交換をしつつお互いの信頼関係を深めていきます。

③ 大学との連携

水産系大学との連携と交流を図る上で、特に地元三重大学との連携の在り方について研究し、大学の出前授業の活用等も含めて推進に向けて検討していきます。

④ 志摩市や地元産業界との連携

- ・ 志摩市や志摩市教育委員会とは志摩市広報や行政チャンネルの活用等協力を得るとともに、地域の祭りやイベントへ積極的に参加することによって、地元の本校理解に努めていきます。
- ・ 志摩市商工会とはインターンシップや生徒の進路指導等の連携を深め、地域のイベントやボランティア活動への参画協力などを通じて、地域に残り活躍する生徒の育成に努めていきます。
- ・ 志摩市産業界とは卒業生の進路実現に向けた支援を得るとともに、本校の持つ施設・設備の有効活用を検討する中で、漁業や真珠養殖業及び観光産業等と可能な限り連携し、地域産業の振興に協力できる体制作りを図っていきます。

- ・ PTA団体とは、学校行事への積極的参加による活動支援や指導方針に対する理解を深める中で、生徒の活動状況等を情報発信するなど、地域や保護者との連携を密に図っていきます。
- ・ このような連携を充実させるとともに本校の活動状況や存在意義・価値観等を常に発信し、地域から信頼される魅力ある学校づくりを進めていきます。

(3) 進路指導の充実

職業高校として資格取得には一層の努力を行いつつ、キャリア教育の充実を図るなど、就職では内定100%の達成を目指します。また、進学では基礎学力の向上や進学補習の充実等を図ることにより、水産系・工業系・農業系を中心とした4年制大学への合格を目指します。

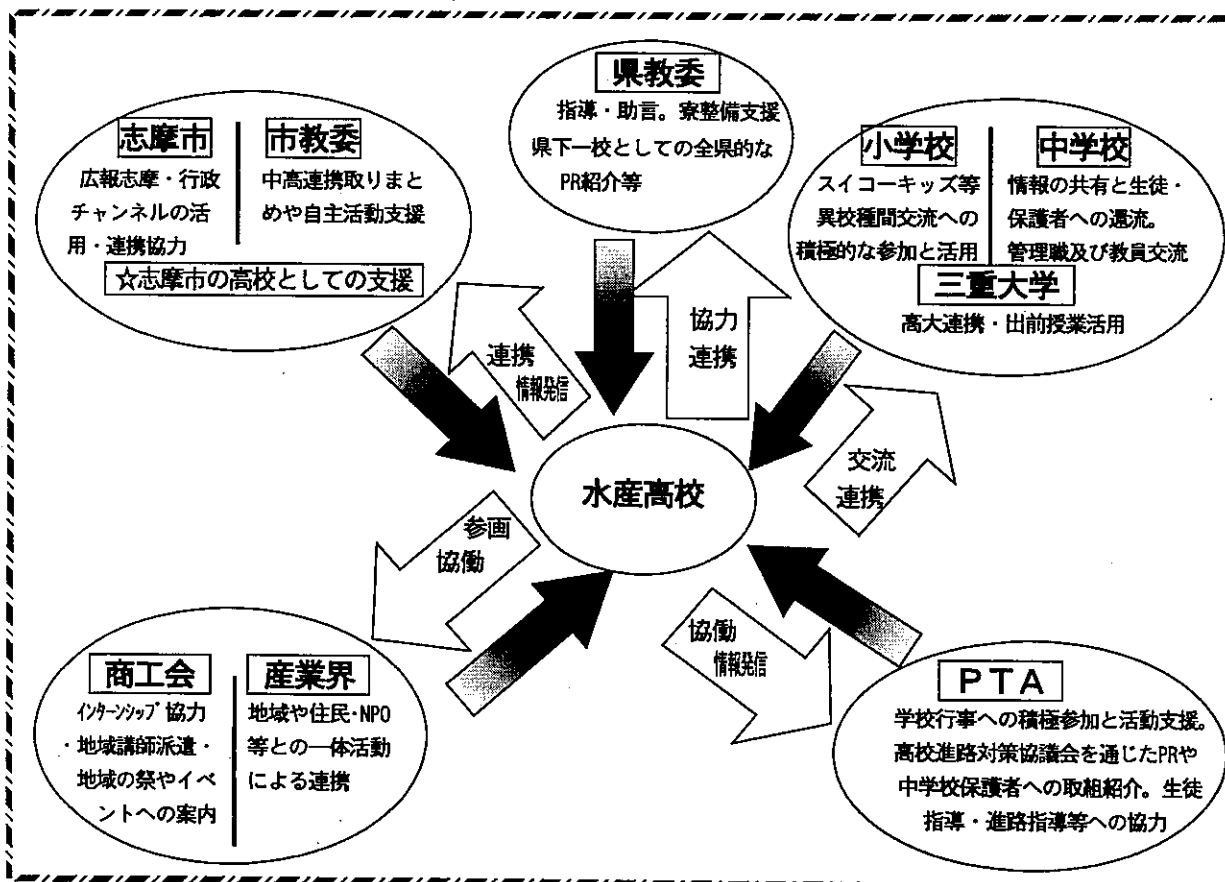
(4) 専攻科の在り方

近年、内航海運関係等中心に海技免状を持った生徒への求人が非常に増加しており、専攻科の存続に向けた在り方検討はもちろん、それに伴う実習船運航の在り方についてもより一層の充実に向けて検討を図っていきます。

(5) 教育課程の工夫：新たなコースの設置等

校名・科名の変更も視野に入れ、21年度入試を目途とした新たな再編改革を検討していきます。具体的な検討内容は次のとおりです。

- ① 現行の水産学科3科を維持したままでくくり募集を行う。
- ② 1年次における普通教科及び専門教科については、3科とも共通履修とする混合クラスを編成する。
- ③ 国語・数学・英語について習熟度別クラスを編成する。
- ④ 2年次よりコース制を中心とした教育課程を編成する。なお、コースとしては真珠宝飾関係のデザインコースや四年制大学進学を目指した進学コース、更には情報や流通を意識したコースなど、3科5～6コースの設置を目指して早急に検討を進めていきます。



參考資料

平成17・18年度 志摩地域高等学校再編活性化推進協議会委員

三重大学生物資源学部教授 (学識経験者)	前川 行幸
志摩市教育委員会 教育長	西岡 松太夫
志摩市教育委員会 調整監 (平成18年度)	磯和 範好
志摩市商工会会長 (地域住民代表)	中嶋 勉
志摩地区PTA連合会代表 (地域住民代表)	下村 直樹
志摩高等学校PTA会長 (平成17年度)	天満 昭信
志摩高等学校PTA会長 (平成18年度)	浅野 博樹
水産高等学校PTA会長	平賀 ひとみ
志摩高等学校長	西岡 良卓
水産高等学校長	松林 清剛
志摩高等学校教員代表	井上 博雄
水産高等学校教員代表	大山 多賀保
志摩地区中学校長会会長 (平成17年度)	中野 成吾 (文岡中学校長)
志摩地区中学校長会会長 (平成18年度)	福井 一 (文岡中学校長)
南勢志摩地区小中学校教員代表	大主 孔明 (和具中学校教諭)
事務局 志摩高等学校 (平成17年度) 水産高等学校 (平成18年度)	
県教育委員会	

志摩地域高等学校再編活性化推進協議会設置要綱

(設 置)

第1条 少子化などの社会の変化が著しい中、志摩地域における高等学校の特色化、魅力化を図り、学習者にとって魅力ある学習環境を整備するため、志摩地域高等学校再編活性化推進協議会（以下、「協議会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 協議会は、県立高等学校再編活性化第二次実施計画に従い、次に掲げる事項について具体的に検討し、その結果を三重県教育委員会教育長に報告する。

- (1) 今後の地域社会における県立高等学校の在り方に関すること
- (2) 施設・設備に関すること
- (3) 県立高等学校再編活性化推進に資すること
- (4) その他検討を要すること

(組 織)

第3条 協議会は、学識経験者等、関係県立高等学校長、志摩市教育委員会教育長、小中学校長関係者、小中学校PTA関係者、高等学校PTA関係者、教員代表、県教育委員会事務局関係者等で組織する。

- 2 協議会に、会長、副会長を置く。
- 3 会長及び副会長は、委員の中から互選により決める。
- 4 会長は会務を総理し、副会長は会長を補佐し会長に事故ある時は職務を代行する。
- 5 協議会は、必要に応じて関係者の出席を求め、意見を聞くことができる。

(調査委員会)

第4条 協議会のもとに、必要に応じて調査委員会を設置する。

- 2 調査委員会は、テーマに応じて会長の指名する関係者で構成する。

(会議)

第5条 協議会は、会長が招集し、会長が議事運営する。

- 2 志摩高等学校を幹事校とし、協議会の開催、資料の作成等を幹事校において処理する。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関する事項は会長が定める。

附 則

この要綱は平成17年5月2日から施行する。

平成18年度は、水産高校を幹事校とし、協議会の開催、資料の作成等を幹事校において処理する。

平成18年度 地区別 中学校卒業者の推移と予測 (含社会増)

平成18年5月1日 教育改革室調べ

<南勢地区>	H 15.3 卒業	H 16.3 卒業	H 17.3 卒業	H 18.3 卒業	H 19.3 現中3	H 20.3 現中2	H 21.3 現中1	H 22.3 現小6	H 23.3 現小5	H 24.3 現小4	H 25.3 現小3	H 26.3 現小2	H 27.3 現小1
伊勢市	1,510	1,556 46	1,457 -99	1,396 -61	1,334 -62 -62	1,354 20 -42	1,295 -59 -101	1,372 77 -24	1,301 -71 -95	1,308 7 -88	1,267 -41 -129	1,235 -32 -161	1,247 12 -149
度会郡	552	543 -9	499 -44	517 18	528 11 11	494 -34 -23	501 7 -16	503 2 -14	439 -64 -78	475 36 -42	460 -15 -57	443 -17 -74	422 -21 -95
鳥羽市	294	278 -16	263 -15	232 -31	227 -5 -5	254 27 22	203 -51 -29	235 32 3	211 -24 -21	212 1 -20	192 -20 -40	210 18 -22	196 -14 -36
志摩市	653	728 75	645 -83	632 -13	579 -53 -53	589 10 -43	556 -33 -76	604 48 -28	535 -69 -97	548 13 -84	538 -10 -94	525 -13 -107	471 -54 -161
小計	3,009	3,105 96	2,864 -241	2,777 -87	2,668 -109 -109	2,691 23 -86	2,555 -136 -222	2,714 159 -63	2,486 -228 -291	2,543 57 -234	2,457 -86 -320	2,413 -44 -364	2,336 -77 -441
H18.3対比				48	47	45.8	42.4	46.4	40.7	42.1	40.0	38.9	36.9

※想定学級数の計算式：48 + { (小計のH18.3対比) ÷ 40 }

<県全体>	H 15.3 卒業	H 16.3 卒業	H 17.3 卒業	H 18.3 卒業	H 19.3 現中3	H 20.3 現中2	H 21.3 現中1	H 22.3 現小6	H 23.3 現小5	H 24.3 現小4	H 25.3 現小3	H 26.3 現小2	H 27.3 現小1
県内合計	20,468	20,324 -144	19,302 -1,022	18,649 -653	18,549 -100 -100	18,386 -163 -263	18,184 -202 -465	18,616 432 -33	17,935 -681 -714	18,233 298 -416	18,150 -83 -499	18,236 86 -413	17,803 -433 -846
H18.3対比				339					321.1				

※想定学級数の計算式：339 + { (県内合計のH18.3対比) ÷ 40 }

資料3

平成17・16年度 志摩市内中学校卒業者の進学状況

中学校卒業生：1003名(1025名)
 県立全日制高校進学者：614名(650名)

中学校卒業生：910名(930名)
 県立全日制高校進学者：653名(660名)

()内は16年度数値

(平成18年4月12日中学校進路状況調査より)

伊勢市

宇治山田高等学校 進学者数320 (320)

伊勢市	度会郡	鳥羽市	志摩市	その他
125	70	24	71	30
(126)	(84)	(16)	(76)	(18)

伊勢高等学校 進学者数319 (318)

伊勢市	度会郡	鳥羽市	志摩市	その他
142	89	14	54	20
(149)	(76)	(19)	(45)	(29)

宇治山田商業高等学校 進学者数240 (239)

伊勢市	度会郡	鳥羽市	志摩市	その他
70	72	24	56	18
(76)	(63)	(21)	(59)	(20)

伊勢工業高等学校 進学者数199 (239)

伊勢市	度会郡	鳥羽市	志摩市	その他
80	48	17	37	17
(86)	(58)	(28)	(45)	(22)

伊勢市の県立全日制高校へ 218 (225)

伊勢市から 3 (13)

伊勢市の私立高校へ 84 (77)

度会郡

明野高等学校 進学者数198 (199)

伊勢市	度会郡	鳥羽市	志摩市	その他
57	79	9	17	36
(59)	(83)	(11)	(14)	(32)

南伊勢高等学校 進学者数135

伊勢市	度会郡	鳥羽市	志摩市	その他
41	83	0	9	2
(47)	(89)	(1)	(5)	(1)

度会郡から 3 (4)

度会郡の県立全日制高校へ 26 (19)

志摩市

志摩市の卒業生に占める志摩・水産の割合
 $140 + 89 = 229$
 $229 \div 632 = 36.2\%$

志摩高等学校 進学者数145 (146)

伊勢市	度会郡	鳥羽市	志摩市	その他
1	2	2	140	0
(12)	(2)	(5)	(125)	(2)

伊勢市私立全日制高校進学者：501名(79.3%)卒業者数で割った数 (476) (73.8%)

水産高等学校 進学者数99 (86)

伊勢市	度会郡	鳥羽市	志摩市	その他
2	1	1	89	6
(1)	(2)	(0)	(78)	(5)

伊勢市私立全日制高校進学者：501名(79.3%)卒業者数で割った数 (476) (73.8%)

水産高等学校 進学者数99 (86)

伊勢市	度会郡	鳥羽市	志摩市	その他
2	1	1	89	6
(1)	(2)	(0)	(78)	(5)

伊勢市から 3 (5)

鳥羽市から 3 (5)

鳥羽市の県立全日制高校へ 13 (7)

鳥羽市の国立高専へ 18 (46)

鳥羽市から 3 (5)

鳥羽市から 3 (5)

鳥羽市

鳥羽市から 3 (13)

鳥羽市の県立全日制高校へ 218 (225)

鳥羽市の私立高校へ 84 (77)

鳥羽市の国立高専へ 18 (46)

鳥羽市から 3 (5)

鳥羽市から 3 (5)

鳥羽市の県立全日制高校へ 13 (7)

鳥羽市の国立高専へ 18 (46)

鳥羽市から 3 (5)

鳥羽市から 3 (5)

鳥羽市

鳥羽市から 3 (13)

鳥羽市の県立全日制高校へ 218 (225)

鳥羽市の私立高校へ 84 (77)

鳥羽市の国立高専へ 18 (46)

鳥羽市から 3 (5)

鳥羽市から 3 (5)

鳥羽市の県立全日制高校へ 13 (7)

鳥羽市の国立高専へ 18 (46)

鳥羽市から 3 (5)

鳥羽市から 3 (5)

鳥羽市

鳥羽市から 3 (13)

鳥羽市の県立全日制高校へ 218 (225)

鳥羽市の私立高校へ 84 (77)

鳥羽市の国立高専へ 18 (46)

鳥羽市から 3 (5)

鳥羽市から 3 (5)

鳥羽市の県立全日制高校へ 13 (7)

鳥羽市の国立高専へ 18 (46)

鳥羽市から 3 (5)

鳥羽市から 3 (5)

志摩地区高等学校における最近の入学者選抜結果(志摩・水産)

高等学校名	学科・コース名	平成16年度						平成17年度						平成18年度					
		定員	推薦 第一次	第二次	合格者数	欠員	定員	推薦 第一次	第二次	合格者数	欠員	定員	推薦 第一次	第二次	合格者数	欠員			
志摩	普通	160	129	4	133	27	160	112	15	127	33	120	120	0	120	0			
	国際コース	40	22	4	26	14	40	18	1	19	21	40	22	4	26	14			
	学校計	200	151	8	159	41	200	130	16	146	54	160	142	4	146	14			
水産	普通	40	30	1	31	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
	海洋	30	25	0	25	5	30	25	0	25	5	30	28	1	29	1			
	水産製造・増殖	40	33	0	33	7	40	31	0	31	9	40	40	0	40	0			
	機関	35	32	0	32	3	35	34	0	34	1	35	34	0	34	1			
	学校計	145	120	1	121	24	105	90	0	90	15	105	102	1	103	2			